

課題整理から考えた下水道事業の目指す方向性(案)

① まちのくらしを支える取組	課題	取組を検討する視点
【下水道施設の老朽化】	管路	新たな更新手法の導入(ストックマネジメント) → 老朽化速度を予測し事業量を設定 → 増加する事業量への対応 + 建替え時期に連動 + 建替え時期の分散化
	設備機器	
	ポンプ場/処理場	
【良好な水環境の形成】	水環境の保全	公共の下水道 → 合流式下水道改善対策による放流水質基準の保持 大阪湾流域別下水道整備総合計画による放流水質基準の保持(平成22年度~令和7年度) → 計画見直しへの対応(令和8年度以降)
	環境負荷の低減	

② 災害から守り備える取組	課題	取組を検討する視点
【増加する自然災害について】	増集中豪雨	行政による公助(防災) 共助・自助への展開(減災)
	大規模な地震	行政による公助(防災) 共助・自助への展開(減災)
		気候変動に応じた下水道施設の能力強化 新基準に基づいた下水道施設の耐水化 市民・事業者との貯留機能向上の取組の継続 市民・事業者への下水道施設の積極的な情報発信 老朽化にあわせた管きよの耐震化 + 老朽化していないエリアの地震対策 ポンプ場・処理場機能の確保 マンホールトイレの設置 業務継続計画(BCP)の継続と充実 マンホールトイレの設置の共助 非常用トイレの備蓄など自助の促進

③ 将来へ事業をつなげる取組	課題	取組を検討する視点
【財政運営への懸念について】	将来人口の減少	使用料収入の減少に応じたアセットマネジメントの実践
	積立金の活用	大規模投資への建設改良積立金の活用
【事業運営体制について】	技術力の確保	将来を担う若手職員への技術継承 + 新たな課題にチャレンジできる人材の育成
	市民が意識する不安や関心について	下水道に関する情報と共助・自助に繋がる情報の発信

